

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102063		
法人名	医療法人 静隆会		
事業所名	グループホーム 大平台の家	ユニット名	1号館、2号館
所在地	静岡県浜松市西区大平台 3丁目36番10号		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ligo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22771

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のリビングから公園が一望、四季の映り変わりが感じられ、散歩に行くにも大変良い場所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築の住宅や店舗が立ち並ぶ新興の街並の中に事業所はあり、地域資源が豊富にある。外気浴と身体を動かすことは日課と考え、近くの公園への散歩やリハビリ体操をしながらの日光浴に取り組んでいる。公園には園児がいることが多く、利用者の楽しみのひとつとなっている。また、11月から同法人のデイサービスも利用し、出掛ける機会を増やしている。ピアノやギターによる音楽療法などにも取り組み、ボランティアなど外から人を受け入れることにも力を入れ始めた。また、本年からモニタリングを担当制にし、職員に責任をもつことやケアサービスに意識をもって取り組むことを促している。管理者が交替し、新しい取り組みも多々ある中、職員はやりがいをもって業務に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事等に参加し、実践につなげている。	玄関に掲示している。地域の行事や催事には利用者とともに職員も参加し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内運動会や夏まつりなどの参加している。また近隣の方が犬の散歩時に立ち寄ってくれる。	自治会に加入し、回覧板も廻ってきている。地域の祭りには見学に出掛けるとともに寄附もし、地域へ日頃の感謝を表している。	事業所の行事を地域に案内し、地域の皆さんが来訪する機会をつくることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の人々に理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の状況、施設での取り組みなどを報告し、話し合いを行ない貴重な意見を得ている。	家族には都度全員にお知らせしているが、参加者は少ない。市の担当者、包括、自治会長、民生委員などを主なメンバーとして、月2回運営している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いています。また介護相談員の受入れを行なっている。	郵送で済むような事柄も出向くようにし、話をする機会をつくるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が研修を受け、禁止の対象となる行為、施錠・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」をするとともに、しないよう周知徹底している。ただし、スピーチロックについては気になる場面もあるため、相互で注意し合える関係を職員同士がまずつくることを推進している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止には、強く関心を持ち、講義を受け理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方がおり、その方を通して後見人制度に対する知識をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行ない理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等があった場合は厳粛に受け止め今後の運営に役立っている。	なんでも言い合える関係でいたいと願っているため、面会の際にはお茶を出したり、共用空間のソファをお勧めするなど、滞留時間を長くもってもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンスを行なっている。また毎月第3火曜日には職員の定例会を行なっている。	「言ってもらえるような関係である」ために、管理者は現場に出て職員と同じ業務に携わることにより多くの時間をとっている。また、定期及び随時の個人面談はしていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には耳を傾け、働きやすい職場環境となるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が年2回行ない、また希望者には講演・研修なども行って頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居系部会などの研修会に参加している。またグループ内での同業者との交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、家族より状況を聞き、本人と話し、理解して安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族より話しを良く聞き、家族が安心出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族から状況及び要望を聞き、サービス計画書を作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆さんは人生経験の豊かな方たちであることを職員はよく理解しており尊敬の念をもって接することを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に共同生活をしているという気持ちをもって支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人等がいつでも自由にホームに訪問できるように努めている。	どの家族も月に1回以上の面会があり、家族との関係継続は良好である。また、家族が墓参りなどに連れ出してもくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを大切に、合同で施設内でのベンチでの会話を楽しんだり、共同でのリエクレーションや物作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を受けた時には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを日頃の会話などから聞き取り、把握に努めている。	1対1の会話の機会を増やすことで、情報収集に努めている。新しい情報や変化の様子が確認できた場合は経過記録に残し、カンファレンスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式の暮らしの情報を記入して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時、職員同士の意見交換、情報交換をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者、介護職員、家族、本人の意向など話し合い介護サービス計画書を作成している。	担当制にし責任をもってモニタリングに取り組んでいる。また、介護支援専門員は作業療法士の資格もあり、ストレッチやリハビリ体操などからも利用者の心身を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を、個々の経過記録に記録しカンファレンス時に話し合い、ケアプラン、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望などを視野に入れサービスを取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事等にボランティアの協力を頂き、楽しんで頂けるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望を取り入れ、主治医を決め、適切な医療を受けられるように支援している。	基本は家族にお願いしているが、かかりつけ医は職員が同伴している。医療情報は個人ファイルに保管し、有事に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回来設し健康管理を行っている。異常がある場合はその旨を受診時、主治医に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時スムーズに対応できるよう情報提供をしている。また入院中、相談員や看護師との情報提供を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に医療連携体制について(看取りに関する指針)説明を行っている。	契約時にできること、できないことについて家族には理解してもらっている。事業所としては医療行為を必要としない場合は看取りに取り組む考えがあるが、多様な方法があるため、都度家族と話し合うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握しそれに添って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や防災対策をおこなっている。定例会にて定期的に話し合いを行っている。	年2回の訓練は想定を替え行っている。また、電磁調理器を導入し、起こらない工夫に努めている。地域の防災訓練に参加する予定でいる。	地域の皆さんにも参加してもらえるよう、参加予定である地域の訓練で積極的な関係づくりに努めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し言葉遣いや対応に注意している。	利用者同士の関係において尊厳やプライバシー保護に問題がみられるようなケースでは、食事のテーブルを替えるなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に会話の中で本人の思いや希望を受け止め自分の意思を伝達できるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個々の希望に添った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーヘルパーが来設してもらい散髪している。その人らしいおしゃれができるように声かけ見守りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の特別メニューがあり楽しみにしている。個々のレベルに合った手伝い(テーブル拭き・食器洗い・食器拭き)を一緒に行っている。	月～土は業者委託であるため、量や硬さなど詳細を都度フィードバックしている。また、日曜日については嗜好調査や普段の聞きとり結果を取り入れ、職員が作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をし、水分不足にならないように毎食汁物を付け、個々の状態に合った量の調節をし、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室内に洗面所を設置しており、口腔ケアをしている。自分でできない方は毎食後声掛け、及び介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、チェック表に記入しトイレ誘導をしている。	誘導の必要な方のみ排泄チェックをしている。把握できていることから、トイレでの機会が増えている。また、運動や繊維質のあるおやつ(果物、芋など)でスムーズな排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入して便の状態を把握し、主治医、看護師と連携して内服薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入ることができ、希望者は毎日入浴されているが時間帯は職員の勤務体制上、14時からと決められている。	安全を第一とし職員が3人体制となる時間帯に入浴してもらっているため、時間帯の希望があっても応じることはできていない。お茶がらやゆずなど自然なものを入浴剤として取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の思いを尊重し、休みたい時は居室で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理表に用量・目的等記入して把握し、手渡し、飲み込み確認、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な役割を活かし、物作り、リエクリエーション、散歩など楽しみを見つけ張り合いが持てるよう支援している。また毎月行事を行い楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり外気浴をしている。また家族と外出する人もいる。	近くの公園の散歩や玄関先のベンチでの雑談などを通して外気浴をすることを心がけている。また、行事食の日のお弁当をもって公園でランチをしたり、近くの食品工場などに遊びに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の管理できる利用者は影響の及ばない程度の所持金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話ができる利用者は少ないができる方行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事など思い出写真を飾ったり、皆さんの作った作品を飾ったり季節感を取り入れている。また窓からは公園の植木が四季の移り変わりを楽しむことができる。	ソファがあり、ゆったりとくつろげる場になっている。また目前には公園が広がり、景色を楽しむことができる。毎月利用者と職員で季節ごとの飾りつけをし、折々の雰囲気を感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングが共用空間として確保し、思い思いに過ごしている、独りになりたい方は居室で休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく使い慣れた物を使用して頂くよう説明しています。	エアコン・クローゼット・洗面台・カーテン(防炎加工済)が備えつけてある。レースのカーテンは好みのものをつけている。TVなどを持ち込み、居心地良い居室作りができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっておりすべての所に手すりをつけてある。必要以上に手をかけないでできることはやって頂き、見守りし自立できるようにしている。		